

電子書籍 『蹴球人ライブラリー』 発刊のお知らせ

株式会社イシクラ

〒339-0072 埼玉県さいたま市岩槻区古ヶ場 1-6-11

<http://www.ishikura.co.jp/>

株式会社イシクラは、電子書籍として『蹴球人ライブラリー』を発刊することになりました。平成 25 年 1 月 10 日、その第 1 弾として、平瀬智行氏（ベガルタ仙台アンバサダー、元日本代表）の「不屈不撓」、木寺浩一氏（KIDE FOOTBALL ACADEMY 代表）の「まだまだ」を発刊することになりましたので、お知らせ致します。

この『蹴球人ライブラリー』は、一般社団法人日本プロサッカー選手会（佐藤寿人会長）の特別協力をいただいて、発刊の運びとなりました。

弊社としましては、これまで埼玉県内の高校サッカーを中心に、近県の育成年代の選手たちの活躍を追い続けてきました。この『蹴球人ライブラリー』の発刊により、今まで以上に、サッカーへの取り組みを熱くしていきたいと考えております。

つきましては、広く告知をお願いいたく、お知らせさせていただきます。

なお、続刊として磯貝洋光氏の書籍（タイトル未定）を予定しております。

タイトル

「不屈不撓」 平瀬智行（ベガルタ仙台アンバサダー、元日本代表） 定価 630 円（税込）

「まだまだ」 木寺浩一（KIDE FOOTBALL ACADEMY 代表） 定価 525 円（税込）

『蹴球人ライブラリー』ホームページ <http://www.n-ipgs.jp/syukyu/>

発行 株式会社イシクラ（埼玉県さいたま市） <http://www.ishikura.co.jp/>

販売 DL-MARKET <http://www.dlmarket.jp/default.php>

問い合わせ先

株式会社イシクラ

開発部 藤田雅彦

090-5428-7752

fujita@ishikura.co.jp

TEL : 048-794-8995 FAX : 048-794-8663

「蹴球人ライブラリー」制作趣意書

株式会社イシクラ

近年、選手のセカンドキャリアを取り巻く環境は、日本の経済状況に比例し、決して芳しいものではありません。ただ、サッカーの世界で突出した人材は、別の世界でも十分にその力を発揮できるものと考えております。しかしながら、個々を見ると、特に表現力、コミュニケーション能力の方法が身につけられていないのが現状です。

そこで、自分自身を見つめるという作業を、インタビューを受けることで取り組み、それを一つの形にしていこう、それも電子書籍として販売していこうというのが、この企画の考えです。さらには自分の発言に責任を持たなければならないことを学べば、また違った角度から人と話ができるようになり、物を見ることができるようになるのではないのでしょうか。

今回、3名の方に第一弾としてお願いしております。皆さんにお願いするにあたって考えたのは、まずは引退されたOBの方々の声を、現役選手たちに伝えることが肝要だと思ったからです。三者三様にご活躍されている中で「もっとこうしておけばよかった」という反省、「あのときはあの人に助けられた」という感謝、そして「本当にサッカーをしていてよかった」というサッカーへの思いを語っていただきたいと思っています。皆さんの思いが、一人でも多くの現役選手の意識に何らかの刺激を与えることでしょうか。また今、第二の人生の中でがんばっているOB、まだ試行錯誤しているOBへのエールになればと考えています。

さらに言えば、これまでを振り返っていただくことで、皆さんの周囲にいてサポートしていただいた皆さんへの感謝を表すことになると思っています。その思いが、多くのサポーターに共感を持たれることであり、まだサッカーから遠く離れたところにいる皆さんを引き寄せるものだと確信しています。

ここで振り返ることは、ここまでサッカーに携わってきたものの責任でもあると思うのです。ぜひ主旨をご理解いただき、ご協力していただければ幸いです。

「不屈不撓」 平瀬智行

鹿兒島が生んだ日本を代表するストライカーの一人。その才能は抜きんでており、強豪と呼ばれた鹿兒島実業高校を初めて高校選手権で優勝に導き、一時代を築いた。

しかし、鳴り物入りで鹿島アントラーズに加入したものの、スター軍団の中で埋没してしまいそうな日々を過ごす。そこからブラジル留学、帰国後はシドニーオリンピックを目指すU - 22 日本代表候補に選ばれ、アジア予選では記録となる 17 ゴールを挙げ、本大会出場に大きく貢献した。その後、鹿島の 3 冠獲得（ナビスコカップ、リーグ、天皇杯）を果たすなどエースとして活躍した。

だが自ら選んだヴィッセル神戸への移籍でつまずいてしまうが、そこで出会った人々のおかげで「人」として開花していく。さらに一度は引退を決断しながらも、ベガルタ仙台へ移籍し、J1 復帰に尽力した。現在、ベガルタ仙台アンバサダー。

平瀬智行 語録

「『何かしなきゃ、いかんだろう』って思いましたね」 震災直後の宮城にて

「今振り返れば、自分にとって鹿実での 3 年間の経験はよかったと思いますね。あの 3 年間はあったからこそ、プロに入ってからちょっとしたことではへこたれることはなかったですからね」 母校・鹿実時代を振り返って

「人間として、人として付き合っていける人って、そういっぱいいるわけじゃないじゃないですか。僕にとっては、アツさんであり、和田さんであり、神戸の人たちなんですけどね」 神戸にて

「僕は人が好きなんです。人間味のある人、人間臭い人が大好きなんです。あとなにげにくどい人も好きですね（笑）。熱く語る人、大好きです。まず、人と人としての部分があって、その上で背景の違う人たちのいろいろな経験とか考えを聞くことで、学ぶことはたくさんあると思います」

「まだまだ」 木寺浩一

高校1年で名門・武南高校の守護神として活躍。日本ユース代表としてもアジアを戦った。高校卒業後、まだプロのない時代、NKK(日本リーグ)に就職し、サッカーを続けた。だが廃部となり、京都パープルサンガ(当時JFL)に移籍するも、2年で退団。一度サッカーから離れることを決意する。

だがその直後にケガをし、人生が暗転してしまう。しかし、関東リーグのホンダルミノッソ狭山で復帰し、J2に加入するアルビレックス新潟で「プロ」として復活を遂げる。新潟でJ1昇格を経験し、さらにサンフレッチェ広島に移籍など、38歳まで現役を続けた。現在、KIDE FOOTBALL ACADEMY 代表として各年代のGKたちに指導をしている。金沢市在住。

木寺浩一 語録

「考えてみたら、年間通じてレギュラーだったのは、ルミノッソ(ホンダルミノッソ狭山)とツエーゲンだけだったんですね」

「僕は“ゴールキーパー”という競技をやっていたのかもしれない」

「『どこか声をかけてくれるでしょう』と思っていたんです。むしろ『拾うでしょう!』と。偉そうでしたね……(苦笑)。今、考えれば『何様だよ!』って感じです(笑)。勘違いですね」 NKK サッカー部廃部の際

「これまで(自分にとって)サッカーとは、“遊び”って答えていたんです。でも、人との出会いの場だったんじゃないですかね」